

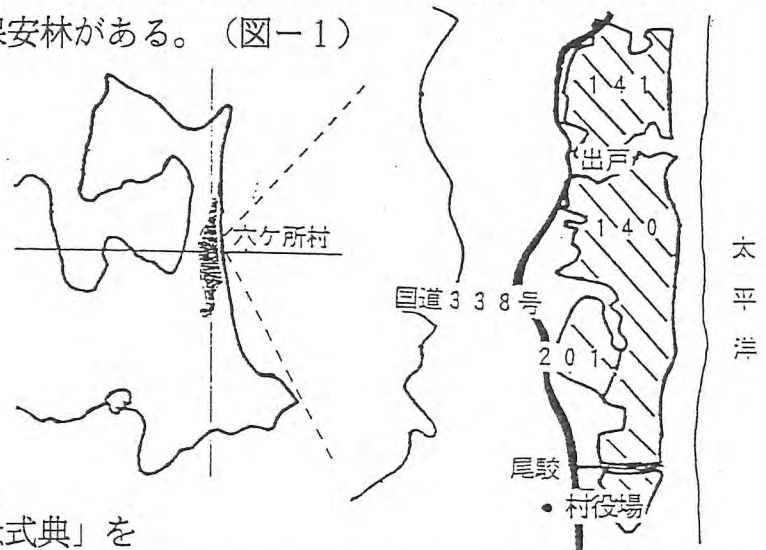
## 2 5 棚沢防風林造成100周年式典を実施して

横浜営林署 ○工藤 信彦  
三浦 勝衛

### 1 はじめに

当営林署管内にあります六ヶ所村は、下北半島の付け根に位置し、春から夏にかけて冷たい湿気を帯びた偏東風（ヤマセ）が太平洋から吹き込み、地域の発展を妨げている。それを和らげるため、六ヶ所村を南北に走る国道338号線と太平洋に跨がって、当署で管理する広大な防風保安林がある。（図-1）

この防風保安林が今年度で造成100周年に当たることを知り、困難極まりない事業を完遂させてきた先人を讃えるとともに、今後、この偉業を継承していくこと、且つ保安林のPR、そして国有林への理解につながればと考え、



「棚沢防風林造成100周年記念式典」を六ヶ所村と共催で実施したので、その経緯と防風林の歴史について発表するものである。

### 2 研究までの経過

一冊の本との出会いが、研究発表のキッカケとなっになっている。（写-1）

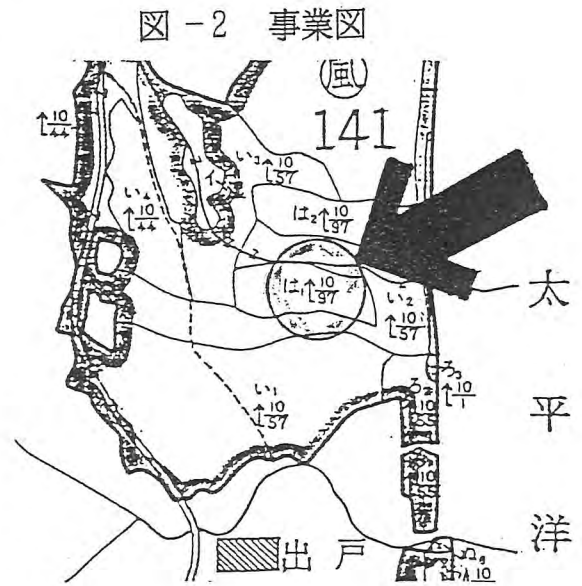
『斗南藩の人、小林寿郎翁遺稿』。横浜町郷土研究会が昭和63年に編集発行したものである。

小林寿郎翁は、明治時代の方で、当時、上北郡の書記をおり、郡各地を巡回して、住民の生活向上に努めていた。

前述の本の明治25年10月15日の巡回日記に「出戸を経て泊に至る。防風林植付には、六ヶ所村を以て最も至難の地方とす。人口少なく、地盤ひろし。故に同村にては、各大字にて着手せんとのことなり」と書かれており、当地域において、当時から住民に植林を進めて歩いたことがわかった。

補足であります。小林寿郎翁は後に、内真部小林区署長、横浜町長を歴任している。（写-2）

そこで、当管内の事業図を広げて見たところ、当時植林されたと思われる林小班を見つけることができた。施業計画後3年経っていることから今年度で100年目に当たることになる。(図-2)



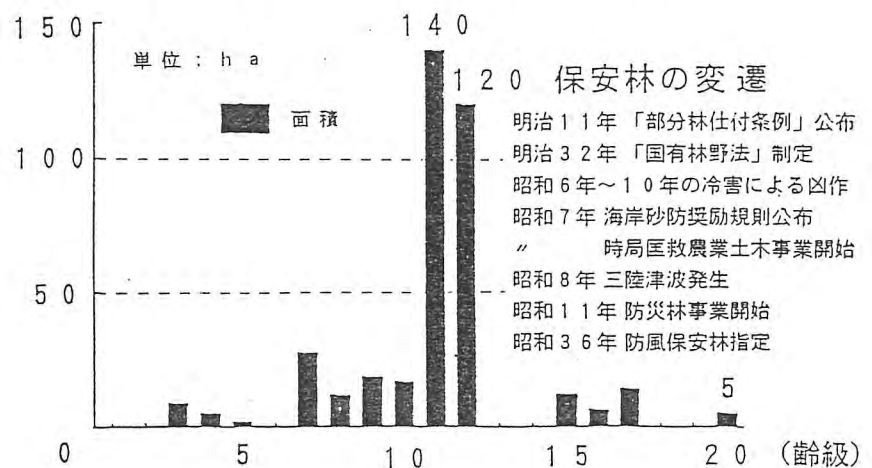
### 3 研究成果

このことから、当防風林の生い立ちを調べてみることにした。

棚沢地区の防風保安林は、419 ha、最大幅員1 km、海岸延長7 kmある。

樹種はクロマツ、樹齢構成は表1のとおりである。

表-1 クロマツ林の齢級配置



保安林の変遷  
 明治11年「部分林仕付条例」公布  
 明治32年「国有林野法」制定  
 昭和6年~10年の冷害による凶作  
 昭和7年 海岸砂防奨励規則公布  
 “ 時局匡救農業土木事業開始  
 昭和8年 三陸津波発生  
 昭和11年 防災林事業開始  
 昭和36年 防風保安林指定

特徴の一つとして、明治時代に植林された20齢級の林分が5 haある。

明治11年『部分林仕付条例』が定められ、国に支障のない所は地方庁の承認を受けて部分林が設定できるようになった。

部分林制度を認めた『国有林野法(明治32年)』の制定される以前、明治25年に植栽されたのが、先ほど紹介した当防風林で一番古い141は1, 142林小班である。

古老に聞くとところによると、魚附林と防風効果を願い植えたとされてる。その当時、この一帯は、少しばかりの植生があるだけで、ほとんど砂丘で、非常に厳しい環境だったようである。

同箇所は、現在、部分林となっていない。山火事等で契約が破棄されたのではないかとされているが、確かなことは分からなかった。

また、他にも部分林として契約されていた林分は、既に伐採され、再造林されている。

次に特徴として、一番多い齢級が11、12齢級である。

造成当時の状況として、

昭和6、9、10年の冷害による凶作。

昭和7年の海岸砂防奨励規則の公布。時局匡救農業土木が始まる。

昭和8年三陸沖大津波の発生。

昭和11年防災林事業の開始。

これらの背景を基に、当防風林もこの時代に造成されたものが一番多く、約270 haある。この中には民地を買い上げ造成整備した2.5 haも含まれている。

その後、地元住民の要望もあり、昭和36年に防風保安林の指定を受けている。

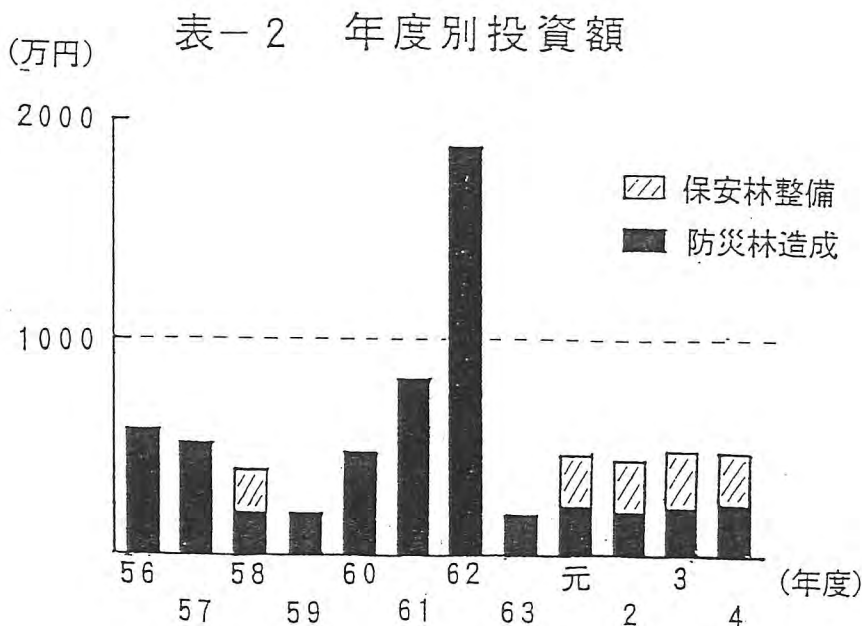
(写-3) 明治当時の部分林証券

(写-4・5) 昭和初期の造成写真

(写-6・7) 現在の防風林

近年の投資額は表-2のとおりである。

復旧治山工事のなかった昭和62年度を除くと毎年500万円前後で推移しており、ここ10年で7000万円程投資している。



#### 4 研究成果の発展

こうして調べてみると、卓越した先見性、不屈の持続性、失敗から技術革新と先人の偉大さが分かってきた。

防風林造成に苦勞されてきた方々が、相当の年配になっていること。丁度、100年になる林分があること。等から、先人の幾多の困難に感謝し、それを継承していくことが大切だと考え、『棚沢防風林造成100周年記念式典』を実施することを企画した。

PR効果、予算事情等から六ヶ所村に共催をお願いしたところ、早速、快諾され平成4年10月15日実施に至った。

#### 5 研究成果の実践

『棚沢防風林造成100周年記念式典』は、丁度、100年になる防風林内で行い、六ヶ所村の村長はじめ、村のほとんどの役職、議員、各町内からの出席があり、近隣市町村の関係者を含め、200名余の参加を得られ、成功裡に終わった。

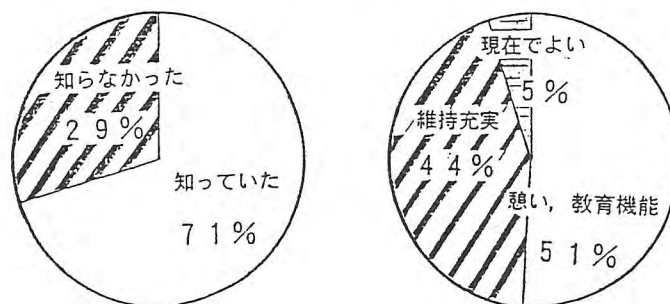
- (写-8・9) 記念式典の様
- (写-10・11) 治山教室の様
- (写-12・13) 記念誌「防風林の葉」
- (写-14) 新聞報道された記事

#### 6 実践の検証

『記念式典』が成功したが、はたして式典の目的が達成できたのであろうか。疑問を解決するため、後日、式典出席者にアンケートを実施した。(表-3)

表-3 アンケート調査

1. この地区のクロマツ林が人手で2. 今後、この地区の防風保安林に造られたことを知っていましたか。何を一番期待しますか。



回答者68人、回収率63%であります、  
式典会場が、国有林と知らなかった 9%  
この地区の防風林が、人手で造成されたのを今回の式典ではじめて知った 29%  
防風林の効用を再認識した。70%となっており、これらのから、式典成果は充分  
あったと思う。

また、防風林に対して、(表-3-2)から期待が大きいことがわかった。

## 7 考察

- (1) 身近にあり、当たり前となっている自然(国有林)の歴史を発掘し、それを『記念式典』という形で体験してもらうことにより、防風保安林のPRと国有林をより広く住民に理解させることができた。
- (2) 国有林の歴史は村の歴史、という認識をしてもらい、六ヶ所村の積極的な協力があり、共同共催により双方の理解が深まった。
- (3) 職員一丸となって成功させたことによる職場の活性化と職員の自信につながった。
- (4) 以上のことから、小さな発見も問題意識により大きく発展し、いろいろな情報が氾濫している中で、いま一番必要とされている国有林を、歴史的な事実によって正しく宣伝できたことである。

## 8 おわりに

六ヶ所村は、今、原子燃料サイクル関連の開発で、活気をおびてる。

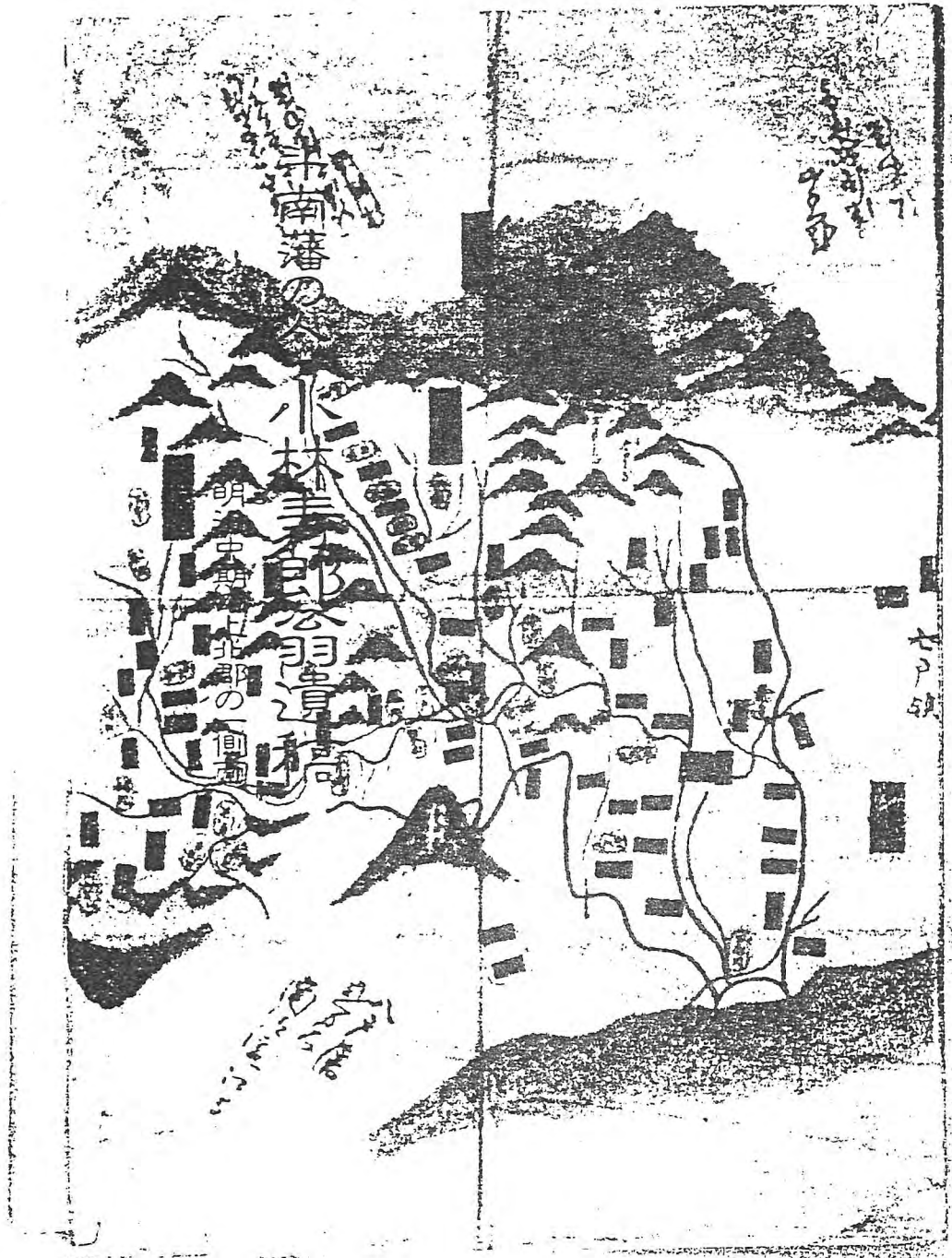
かって働き場所であり、燃料の供給の位置にあった国有林の存在も産業構造の変化、燃料革命等により、住民から薄らぎつつある。

しかしながら同村に占める国有林の割合は36%と多く、今後も地域住民との友好的な関係を維持し、共存共栄していかなければならない。

近年、森林は生活環境機能として、保健休養の場、レクリエーション利用の上からも重要性が高まっている。また、地域住民の文化教育的活動の場としても見直されている。

ここ『棚沢防風林』も着工以来100年の歴史があり、住民の期待も大きいことから、住民のニーズを大切にして、保安林機能を充実させていかなければならない。

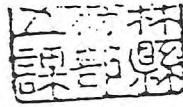




(写-1) 『斗南の人, 小林寿郎翁遺稿』

横浜町郷土研究会 昭和63年に編集発行





第百九十六号

部分木証券

青森縣陸奥國上北郡六ヶ所村大字出戸

植付額之証代

青森縣陸奥國上北郡六ヶ所村大字出戸  
字同畑三十八番京野の向

中村伊之松  
福岡札太郎

一実測及別四所四及歩

此植付松三万九千六百本

字今百十六番京野の向

一実測及別八所六及六畝廿歩

此植付松七万八千本

字榎沢六十五番京野の向

一実測及別七所六及五歩

此植付松六万八千四百本

字榎沢二十九番京野の向

一実測及別六所七歩

此植付松五万四千本

字今七十二番京野の向

一実測及別九所六及五歩

此植付松八万六千四百本

但貸渡期限 自明治廿九年七月三十一日

右明治廿九年七月ヨリ地所貸渡候條植付ヨリ培養保護ニ至ル  
テ全ク私質ヲ以テ可相辨尤ニ成育ノ上ニ官八民ノ割合ヲ以テ  
部分ス可キモノ也

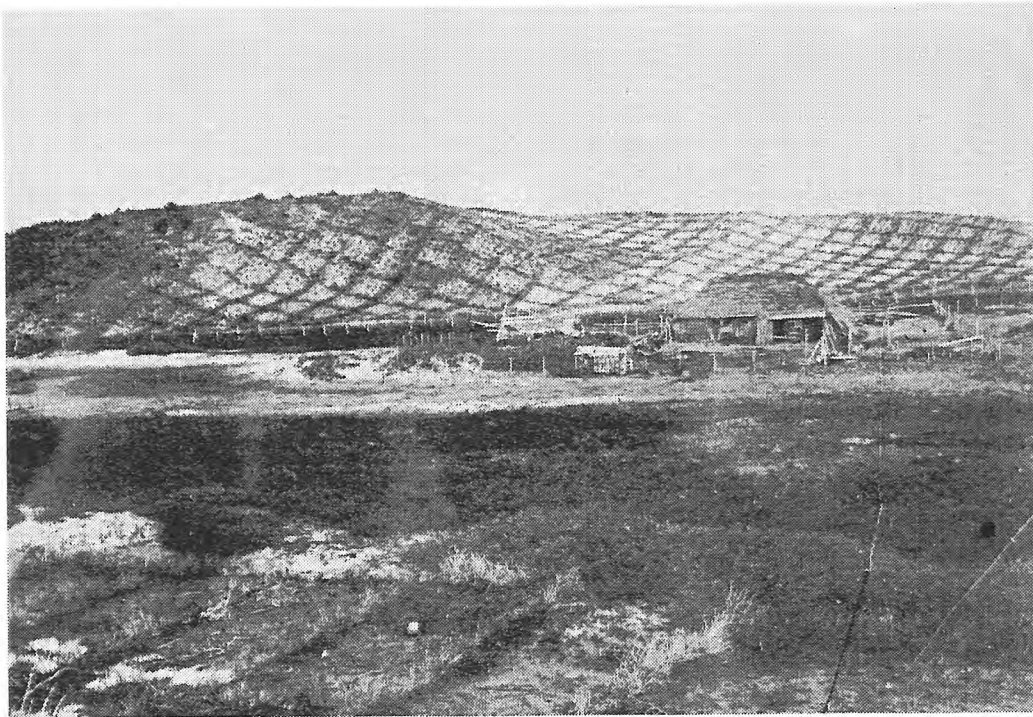
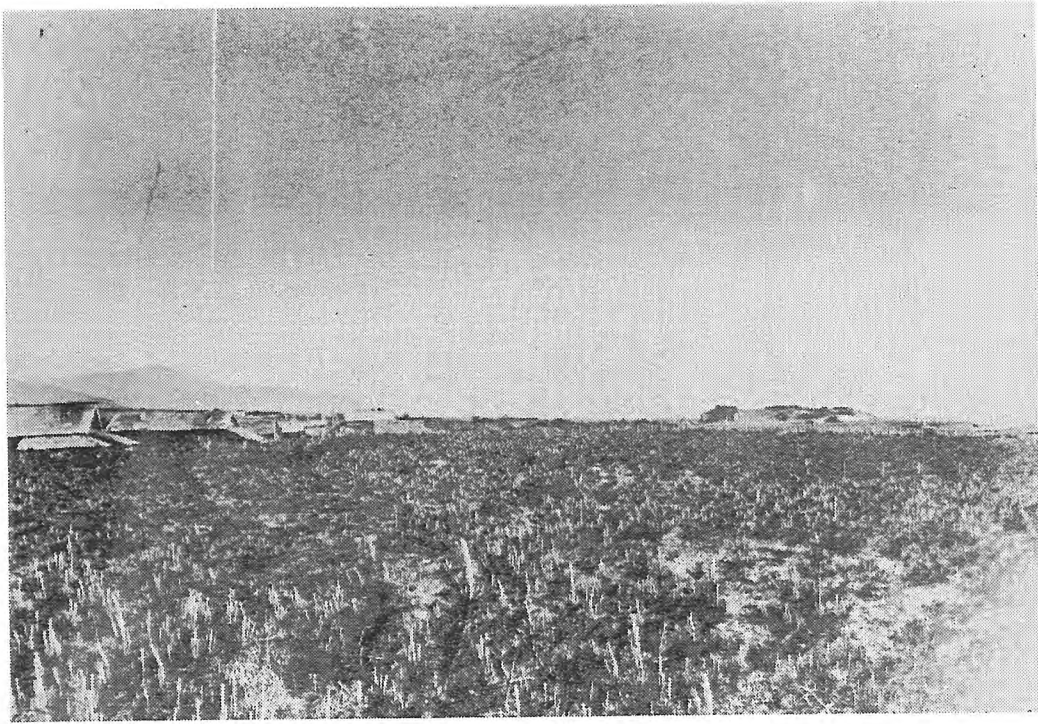
明治廿九年七月十二日

青森縣知事佐和

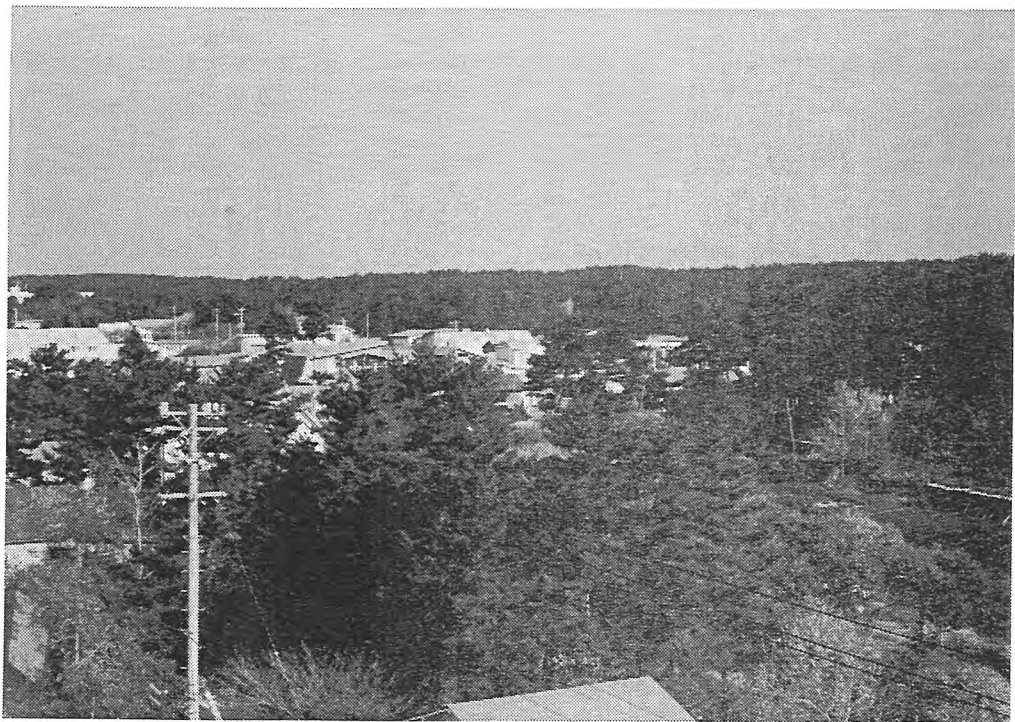


(写一3) 明治当時の部分林証券





(写一4・5) 昭和初期の造成写真

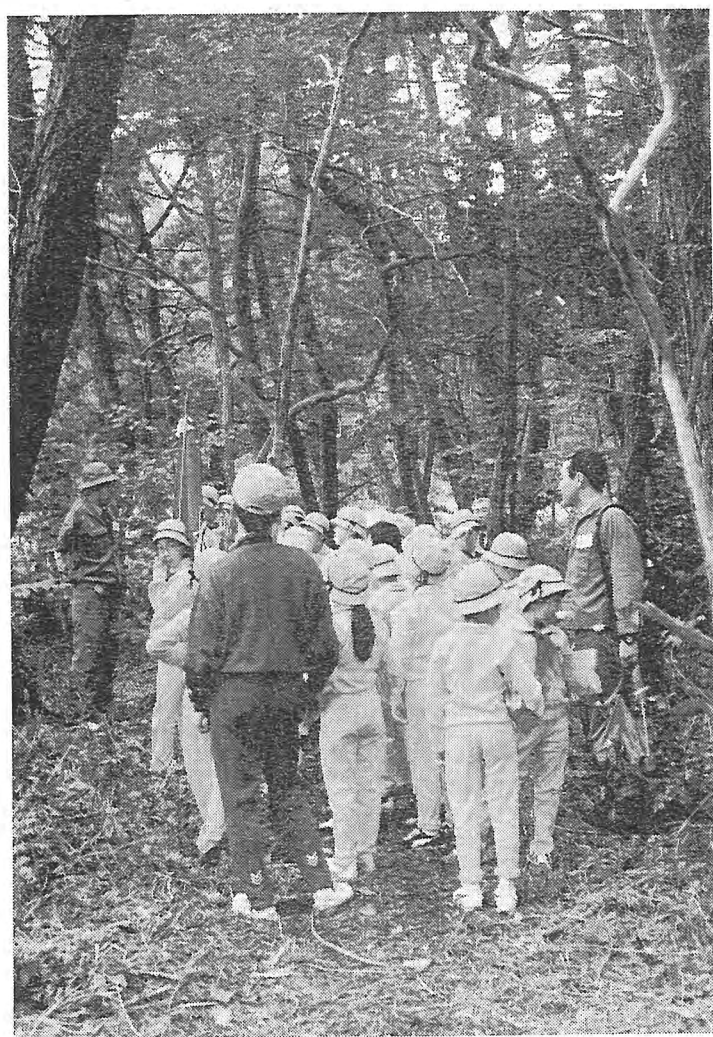
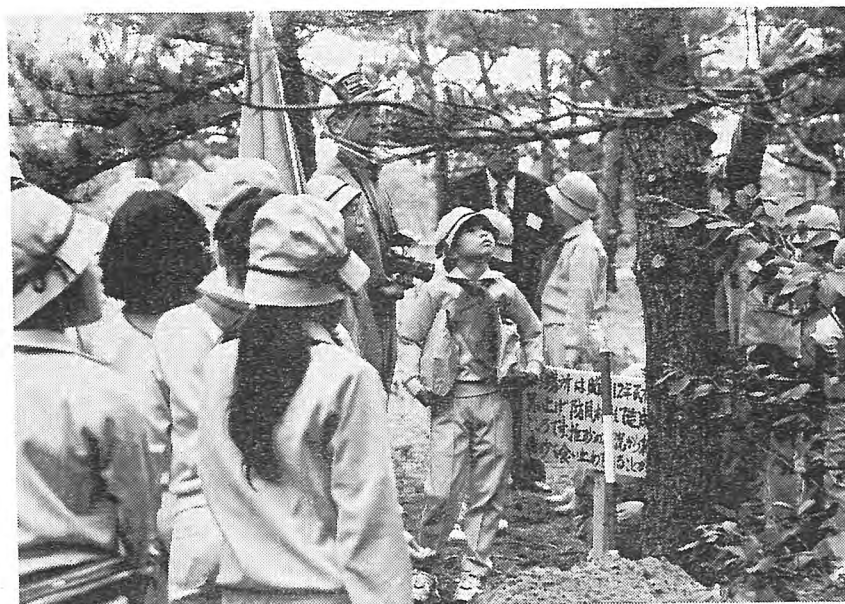


(写一 6・7) 現在の防風林



(写-8・9) 記念式典の様様

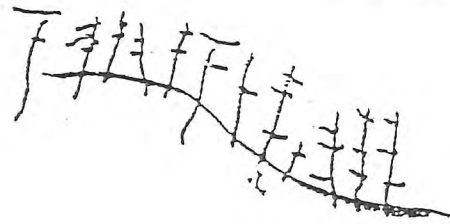




(写-10・11) 治山教室の様

# 海辺の森

〔棚沢防風保安林〕の森



横浜営林署

## 海辺の森

— 目次 —

クロマツは昔から、潮風、飛砂、津波や、高潮などの被害から、私達の住まいや農作物を守るため、海岸に面した砂丘に植えられています。

ここ六ヶ所村でも、太平洋から吹きつける偏東風（ヤマセ）による被害を防ぐため、明治二十五年から治山事業として始めましたクロマツ林の造成も、百年にわたる先人のたゆまない努力のおかげで、りっぱな森林になりました。

これらのクロマツ林は、これからも私達の生活環境を良くするなど、たくさんの恵みを与えてくれるでしょう。

智 恵 の し み こ む  
先 人 の 森

平成四年十月

(写一12・13) 記念誌「防風林の葉」





